

日本大学芸術学部 「芸術学部紀要」 第60号抜刷 平成26年9月

フランス革命期における「友愛」の図像について

木村 三郎

# フランス革命期における「友愛」の図像について

木村 三郎

要 旨

Saburo KIMURA, 《A propos de l'iconographie de la Fraternité à l'époque de la Révolution Française》, *Research in Arts College of Arts, Nihon University*, 2014, no.60. L'auteur a essayé d'analyser l'iconographie de la Fraternité à l'époque de la Révolution Française, sujet encore mal étudié par rapport aux études fécondes sur la Liberté. L'auteur a d'abord signalé l'importance du discours de Lafayette et le discours et la description de la mise en scène des fêtes de la Fraternité du 10 août 1793 par J.-L. David (Doc.12). Puis, parmi les exemples, à partir de 1789 jusqu'en 1794, il a constaté deux types de représentation. Le premier type : en groupe par DAVID, PRUD'HON et DEBUCCOURT (fig.1,4,5,6) ; le second est une personification réalisée par BOIZOT (fig.7,8,9,10). L'auteur les a analysés du point de vue des attributs et des idées essentielles et politiques de la Révolution. Il a consulté les principales références iconographiques pour l'allégorie au 18<sup>e</sup> siècle comme CHOMPRE, 1753, DE PREZEL, 1777, GRAVELOT/ COCHIN, *Iconologie*, 1789-1791. Il a aussi proposé l'interprétation originale sur le tableau de BOUGUEREAU (fig.14), représentant la Fraternité, décrit dans la Constitution en 1848. En conclusion, il a constaté une nouvelle création artistique par les artistes qui ont étudié les types de la personification traditionnelle depuis C. Ripa et qui les ont changé en image particulière de l'ouverture d'une nouvelle saison politique.

Key Words : la Chaité, la Fraternité, fête, la Nature, l'Abondance, Lafayette, J.L.David, P.P.Prud'hon, P.L.Debucourt, Boizot, W.Bouguereau, J.D. Dugourc, Gravelot, iconologie, estampes, Bibliothèque nationale de France, Cochin, Révolution Française.

## I 先行研究と問題の所在

フランス革命期の寓意表現についての主要な先行研究については、既に二〇一一年及び二〇一三年に執筆した拙論で触れている。

本稿では、そうした基礎調査を前提に、かつて、集中的に研究されたことのない「友愛fraternité」を描いた図像について、その美術史的、そして政治史的な意味を著者の見解を目的として述べる。

## II 《友愛の擬人像》とは何か

### A 友愛fraternitéの語源と使用例

本稿で扱う友愛fraternitéというフランス語の初出は、一七四〇年頃とされる(DCLF, II, p.1170)。近代の場合も、二人の兄弟、友人、組織の中の絆を意味して用いた(FURETIERRE, 1690)。十八世紀半ばになつて『百科全書』に書かれた同項

目では、*confraternité* (同業のよしみ) という語も併記されて書かれており、姉妹の關係も組み込まれている<sup>30</sup>。

一方で、フランス革命期におけるこの言葉の使用例については、歴史家オズーフの分析がある。一七八九年にはすでに、諸身分の結合という旗印のもとに、位置づけられており、連盟祭 *Fête de la Fédération* の時期に様々な場面で使われた<sup>4</sup>。革命期において挙行された、そうした多くの祭典の中に、「友愛の祭典」と呼ばれるものがある。図12に示した、版画家ブランシヤールの作品がそれを描いている。一七九三年憲法が採択されてから、ほぼ二ヶ月後の、八月十日に催された祭典である。

画面上部の記銘には、「一七九三年八月十日に挙行された、友愛の祭典のための国家による建造物」と書かれている。画面には、五点の円があり、それぞれの円の周りには説明が書かれている。これらについては、フランス国立図書館版画室学芸員であった、オペールとルの両者による基本的な分析がある。それによれば、この祭典の企画は、画家ダヴィッドが行った。

ここで、ダヴィッドと革命期における国民公会の公教育委員会 *Comité d'Instruction publique* との関わりを、若干時間を遡って確認しておこう。

一七九二年十二月二日、同委員会委員に任命される。

一七九三年六月六日、同委員に再選される。

同六月十六日、ジャコバン・クラブの代表に、一月間の任期で任命される。

同六月二二日、国民公会から、シャン・ド・マルスで行われる予定の祭典責任者に任命される (*WILDESNSTEIN, David, p.46-52*)。

同六月二三日、ダヴィッドは、資料1にある、次の趣旨の熱烈な演説「友愛の祭典に向けて」を同志の前で行った。

「国民公会は、あなた方のために我々を指名した。それは、〈永遠という存在を前にして、友愛 *fraternité* の美しい絆を深めるためである。国民の前で、我らが魂を今燃え上らせ、一つのものにしようではないか?」

本件は同七月四日に決定され、同十一日に国民公会に提案された。ここで、ダヴィッドとピトウイド・ロアンヴィルが書いたその企画書 (資料2) に従って、画面を読み取って行きたい。適宜、この時代に使われた図像事典を参照した。

図12の画面左上の円の中には、女性の座像があり、その前に、男性が二人向かい合い、手にした器を交わしている。手前に三色旗が見える。これは、バステュー監獄の跡地に集合した、国民公会の代議士たちである。女性座像は、「再生の泉」 *la fontaine de la régénération* <sup>31</sup> 「自然 *nature* の擬人像」<sup>32</sup> で表したものである。彼女の豊か

な乳房から、純粹で健康に良い水がほとぼしり、八六人の代議士たちが、器を回しながらその水を飲む。全員が飲み終えた後で、友愛の接吻 *l'acte de la fraternité* が行われる。これが、この祭典が「友愛の祭典」と呼ばれる所以である。人々は、「マルセイエーズ」 (資料2、以下同じ) <sup>33</sup> を歌いながら行進する。

先頭のグループは、市民たちが形成し、彼らは旗を持つ。そこには、垂れ込めた雲の上から見下ろす監視者として、「憲法」の象徴となった「眼」*oeil* のモチーフが描かれている<sup>34</sup>。第二グループは、国民公会の一団であり、豊饒で豊かな生産を象徴する、小麦の穂 *epis de bled* と様々な果物 (*G10: DE PREZEL, 1777, p.103*) を持つて行進する。第三グループには、本論考の後段で再説することとなる、アフリカの黒人 *le noir africain* がヨーロッパの白人 *le blanc européen* と一緒に行進し、同時にそこには、盲人学校の子供たちも加わっている。復活したばかりの市民としての権利を享受し始めるのである (p.11)。

その後、集まった代表たちや市民は、シャン・ド・マルスの広場に向かって行進してゆく。同図には、その行進の過程に作られていた他の、四つの拠点 *station* の様子が描かれている。右上は、第二の拠点であるボワソニエール大通りの情景。一七八九年十月十日の戦いに貢献した、フランス市民に捧げられ作られた凱旋門。右下の拠点は、「自由の擬人像」の座像が描かれた、革命広場 *la Place de la révolution* (p.14、現在の、コンコルド広場)。たなびく三色旗の前で、王制を象徴する全ての装飾物が焼却されている。左下は、アンヴァリッドに作られた、ヘラクレスをかたどった「フランス市民の擬人像」。足下には、打倒された封建制を象徴する、水蛇の怪物ヒュドラ (*CHOMPRIE, p.128*) を踏みつけている。

中央が、終着地点のシャン・ド・マルスである。そこには「祖国の祭壇」がある。市民たちが、共和国憲法の発布を喜び、祖国の統一を誓う。ダヴィッドによれば、ここでは、無数の、友愛の接吻 *le baiser fraternel* が交わされる。また、パリに上京した代表者たちが宿泊する家には、これも後段で詳述する「ならの木」*chêne* の輪が飾られ、友愛と歓迎を示すとされている<sup>35</sup>。

この祭典の行進は、さながら、寓意図像を駆使して制作した移動する劇的な革命史劇である。オズーフ (*OZOUF, 1971, p.883*) が指摘するように、啓蒙期における「見る」との愉悅を満載した行進ともいえる。プロデューサーである画家ダヴィッドが、*DE PREZEL* 等の図像事典を手元に置きながら、王立絵画彫刻アカデミーで学んだ古典的教養を、存分に発揮して制作した一大パージュメントであった。

## B 「友愛の寓意」を描く二類型

この作例だけでなく、フランス革命期の寓意図像の版画作品は、フランス国立図書館版画室に多く収蔵されている。そこにある数々のフォリオの中にある作例をつぶさに調べると、先ず「自由Égalité」の擬人像を描いた作例が目立つ。一方で、「友愛」を描く作例は、必ずしも多くない。しかし、それらを注視すると、以下に紹介するように、興味をそそる歴史的な事例を確認することができた。本稿では、それらを、図像上から考察する作業を試みた。先ず、形態分析を基本にし、群像表現の中に描かれた事例と単独像として描かれた事例とに分類することができた。

### ① 群像による寓意

図1は、ジャックルルイ・ダヴィッドが描いた、著名な《テニスコートの誓い》(ヴェルサイユ宮国立美術館)である。油彩による最終作品は完成されなかつたものである。しかし、そのための素描は多数残されていて、これもその一つである。画家の念頭にあつた全体のイメージがかなりの水準まで予想できる段階のものである。

これ以外にも、準備素描は多く知られていて、図2と3に示してある。図2については、拙論ですでに詳細に、その中に認められる「群像構成理論」について論じている<sup>13</sup>。本論では、その拙論では触れなかつた問題を先ず提示したいと思う。

ここで、やはりダヴィッドが描いた関連作品である図2と3との比較を試みよう。図3にはテニス・コート場の描写はない。前景にいくつかの群像だけがある、まだ大半が素描といつてよい段階のものである。右手には、四名の人物の頭部が油彩で描かれていて、いかにも描き始めたものの、途中で止めてしまった段階である。首からは、裸体デッサンのままで、そこには、男性人物たちの緊迫感のある姿をどのよう描き出すかに腐心している、画家の心理状態がわかる。

しかしながら、ここで注目したいモチーフは、むしろ、図2にはない、左側前景に描かれた三人の群像である。中央にいて正面を向いているのが、カトリックの宗教者、グレゴワール師(一七五〇—一八三二)。それを囲む二人の人物が、左に、シャルトル修道会の僧ド・ジェル(一七三六—一八〇二)。右手がロボ・サンテ・ティエンヌ(一七四三—一七九三)<sup>14</sup>。周辺の群像と比べて、この三人の人物たちは、グレゴワールが二人の方の手を回し、その二人は、互いに両手を前に出して組み合

わせている、いかにも同志としての強い連帯意識を明確に示そうとしている情念表現の形である。プロテスタントとカトリックの和解を勧めている情景である。

図3で、特に試みていることは、これら三者によるモチーフであり、これは、制作が、その後進んだ段階の図1では、一層はつきりと確認できる。言うまでも無く、堅く組み合わせた腕と肩を見るだけでも理解できるように、同志たる明確な意思の表示であると思われる。画家ダヴィッドが、このモチーフに強いこだわりを持ち、こうした個別の準備素描で形態研究を行い、順次完成作の前景の中心をなす形にして行こうとしていたことがわかる。

ところで、画家ブリュドンが描いた図4《フランス憲法の寓意・平等と自由》も同様に素描<sup>15</sup>である。画面は、底辺の長い安定した三角形構図をなし、左右に、古代の浮き彫りを連想させる人物を配置し、フランス十七—十八世紀における、優れて、モニユメンタルで古典主義的な作画法を考えた素描である。褐色の地に柔らかな線で、縦横に人物が描き込まれている。この作品でも、構成は大きく見て三つの群像に分かれていて、それぞれに濃淡の違いを細密に描き分け、明暗部分が、ふくよかな人体の質感を伝えている。中央には、一段高い場所に、女神ミネルヴァ<sup>16</sup>がいて、同時に、頭上には眼の入った兜をかぶり智慧の女神の擬人像であることも表している<sup>17</sup>。この女性像は右手を、「自由」の擬人像の肩に置いている。周囲には、この擬人像の典型的なアトリビュートが三つ、左手で持った杖の先にフリギア帽、そして左の足先に壊されたくびきJoug rompuと、右足の横には猫がそれぞれ認められる<sup>18</sup>。

「自由」は、右手で、もう一人の女性の左手を取っている。乳房を見せたこの半裸の女性は、わずかに後ろにいる三人の幼子を振り向いている。この女性は、「自然Nature」<sup>19</sup>の擬人像である。この女性は、先に述べた、麦を頭に載せた、ギリシャ神話の農耕の神であり、大地の豊饒を示す存在でもあるケレスCeresとして描かれている<sup>20</sup>。

彼女は、異なった肌の色をした三人の子供を引き連れ、その中の一人の子供の手を引き、画面中央に向かって歩いていく。子育てが、「自然」という概念にとつて、基本的な要件であることを示した形であろう。一番左手後ろにいる幼児はズボンをはいていて、オリエント風の印象を与え、正面を向き、石版風の小道具を持ち、そこにはEGALITE(平等)と書かれている。右の幼児は黒人であろう。ここに、奴隷解放の歴史的な事実が反映していると考えられることはごく自然であろう<sup>21</sup>。

ちなみに、フランス国立図書館版画室に所蔵されている、ド・ヴァンク・コレク

シヨンのフォリオ(第一巻・I章)には、「黒人の解放」と題して、一人の黒人を描いた作例だけでなく、複数の人物による物語を描いた多数の版画群がある。その作品群を詳細に比較検討すると、相当数の作品が、一七九三年六月という時点を中心に分類されている<sup>22</sup>。

ここで、「一七九三年憲法」を参照して見よう。これは、一七九三年六月二四日、国民公会で採択されたものである。その「第三章 市民の身分 De l'état des citoyens、第四條」には、以下のような記述がある。

「次の者はフランス市民の権利 (des droits de citoyen Français) の行使を認められる。

フランスに生まれ、かつ居住する (Tout homme né et domicilié en France) 満二歳すべての男性。

フランスに一年以前から居住し、満二歳に達したすべての外国人 (Etranger) で、フランスで自己の労働で生活し、また私有権を取得し、またフランス人と結婚し、または養子を取り、または老人を扶養する者。

最後に、立法府によって、人類に多大な功績のあったと判断されたすべての外国人。」<sup>23</sup>

ブリュードンの描く画面左の幼児には、こうした憲法条文が反映しているとしても不思議ではない。

しかしながら、ここで指摘した黒人のモチーフは、十八世紀フランスの絵画史では珍しいものではなかった。ワトー、ランクレ、ブーシェといったアカデミーの主流にいた画家たちの作例にも認めることができるからである<sup>24</sup>。しかしながら、論者は、白人と黒人の幼児が、図4のようにともに触れあい、図11《友愛の擬人像》のように、時に抱擁する姿が、この革命期に発生しているという事実を指摘したいと思う。

他方、画面右手に認められる一群には、先ず、左手に、頭に鶏 *coq*<sup>25</sup> を付けた杖を持つ「法」の擬人像がいて、自由の擬人像と握手をし、両者の肩に手をかけている「智慧」を見つめている。右下には三人の幼児。先ず、中央の幼児は、網でライオンと羊を誘導している。もう一人、「法」に近い位置にいる幼児は、やはり石板風の小道具を持ち、そこには、記銘 LA LOI SURTE DE TOUTS (法こそが全ての安全を保障する) という文言を認めることができる。

ところで、この幼児は、手に木の枝を持ち頭の後ろに掲げている。植物の小道具としては、いささか目立つ代物である。植物名は「なら」chêne<sup>26</sup> とされる (GUILFREY, 1924, p.143)。この木は、古代では、ジュピターに捧げられていたものであり、一方で、ヘラクレスの棍棒が、この木でできていたために、力の象徴と考えられていた (DE PREZEL, 1777, p.56)。そうした背景もあって、ある市民 *citoyen* が、戦闘などに際し、他の市民を救うとこの木が贈られたと言われ、美德を表す冠はその枝で作られた。それ故に、力を表すとともに、「友愛」を象徴する小道具として考えられていたのである<sup>27</sup>。

ちなみに、「友愛の木」そのものは、国境、あるいは、郡、村の境に植えられた (FURET et OZOUF, DRF, 1988, p.734)。「境界」を超えても、その住人と絆を持つことの象徴である。一方で、広場に植えられたこともあり、一七九三年一月十九日に、パリでも、友愛の木をカールゼル広場に植えることが決まり、そこは、八四本の楡 *peuplier* で囲まれた。その後、この場所は、友愛広場と名付けられた<sup>28</sup>。

こうした分析を確認してみると、この作品からは、ミネルヴァを中心として、左から、「自然」「自由」、そして「法」という擬人像が、相携えて革命の理念を実現しようとする意思が明確に伝わってくる。市民の間の友愛のみならず、理念もまた、手をつなぐことで理想を実現するという、画家ブリュードンの意図が理解できるといえる。

図5《フランス憲法の寓意・平等と法》<sup>29</sup> は、この素描に基づいて、一七九八年に、版画家コピア<sup>30</sup> が版刻したものである<sup>31</sup>。左右が逆になった構図をなしている。画面下部にあるフランス語の記銘は「変わることはない、人権と市民としての義務を基礎にして英知のもとに作られた憲法」と記されていて、素描の図4で論じた内容を要約している。

台座の右側の図は、浮き彫り風に、母親が三人の幼児たちに果物を分け与えている、「平等」を寓意している。反対側では、犯罪者の攻撃から、幼児を守っている母親が「法」を寓意している (LEVIS-GODECHOT, 1997, p.247)。ちなみに一七九三年憲法が採択されてから、ほぼ二ヶ月後の、八月十日に、既に論じた「友愛の祭典」が催されている。

図6《友愛の寓意》は、若干異なった印象の作品である。しかし、ここにも、群像という言葉で説明することができる三人の人物を認めることができる。本図は、既に拙論(木村、ドゥビュクル、二〇一三、図9)で引用し、若干の分析を試みてある。再確認して見よう。この作品は、下の台座に書かれているように、

「FRATERNITE友愛」である。側面で立った姿の女性が、身体をかかめて、二人の子供たちに手を延べて、二人が握手をすることを誘っている。鎧を着けた子供は「戦い」を、裸の子供は「農業」の擬人像である。画面右手には、高い台座の上に、先に指摘した、ミネルウアの像がある。その下には、「Indivisible」と書かれており、戦争を避け、平和を実現しなければ農業は成り立たないことを伝えている。左手の台座には、フリギア帽の形が彫り込まれ、Egaliteの文字もある。

以上、図1から、図6まで、「手をつなぐ人物」を画面の前景に配置することで友愛を描くことが、フランス革命期には、群像表現における一つの定型として存在していたことが理解できる。現実の政治の場面、そして、古典的な寓意表現を存分に使った政治的な意図を示す場面に共通して描かれていたのである。

## ② 単独像による寓意

図7に示した作品《友愛の擬人像》は、ロレが下絵素描を行い、ボワゾン<sup>32</sup>が版刻をしたものである。この作品は、フランス革命期の無骨で理屈っぽい作品群の中では、なによりもその色彩に個性が認められる。白と臙脂の着衣の柔らかいコントラストが目立ち、赤みを帯びた肌の色との調和はあでやかである。背景は小さな点を打ち込んだような部分が面を成して、その間にできる明暗で造形がなされている。中央に立つこの女性像は、画家ダヴィッドがやがて描くことになる、《レカミエ夫人》(ルーヴル美術館蔵)を思わせる。長身で、植物でできた冠を小さな頭部に被り、優雅な身体が緩やかな弧を描いている。ギリシヤの、紐帯を締めたペプロス風の衣装の上から、臙脂の、丈の長いシヨールが肩から足先にまで降りている。膝の位置はやや下にあり、脚に付着したような髪の流れが強調されている。この版画も、同時代の作品らしく、アトリビュートに事欠かない。まず、古代ローマの習俗をすぐに連想させる束棒 (Faisceau) (木村・ドゥビュクール論・二〇一三、註16)を両手で抱え、右手の下には、高い祭壇の上に、燃え上がる、やはり臙脂色の心臓が描かれている<sup>33</sup>。左足のそばには、駕籠の中に白い卵がある。楕円の下の、はつきりと La Fraternité という記銘があり、主題は明確である<sup>34</sup>。

図8の《友愛の擬人像》にも、同じように楕円の中に、女性像が描かれている。左から差し込む光を受けて、胸をはだけた女性像が立ち姿で、この場合は左に身体をひねり、祭壇の上に、燃えてはいない心臓のモチーフを掲げている。右手には小鳥が二羽。ペプロスの衣紋は大ぶりで、前作ほどの繊細さは認められない。この場

合も、記銘に、La Fraternitéと書かれている。作品の構想や、エッチングと想定される技法と、楕円形を中心に置いた構図からは、図7を版刻したボワゾンに近い位置にいた作者が考えられるが、不明である。

図9の同名作品は、単独像とはいえず、腰から上だけを描いた半身像の擬人像である。フランス国立図書館版画室には、色刷りの作品と白黒とが所蔵されているが、本稿では、色刷りを対象として記述を行う。楕円ではない円形の中に、少女がプロフィールとして描き出されている。垂らした褐色の髪には、木葛Lierre (ROUX, JFF, 1949, VI, p.22, no.14)の葉をあしらった薄い青緑の冠を付け、うすぎぬを思わせるペプロスの上衣にもその色が反映している。鼻筋、目元が側面故に明確に描かれ、首から下は、身体を斜めに反らし、左を直視していて、そこには意思のある視線がある。帯には、心臓をあしらった文様を左右に重ねていて、やはり、ここまでに指摘して来た、「友愛の寓意」を表す小道具が、説明的なアトリビュートの形ではなく、さりげなくデザインされている。

一方で、幼さと清楚さを感じさせる印象とは裏腹に、胸をはだけた姿であることから強い印象が生まれている。何故、半裸として描いたのかという論点は興味深く、次段の分析に回したいと思う。下絵素描が、図7で紹介したボワゾンであり、版刻は、ダルシ<sup>35</sup>であることが、記銘からわかる。フランス革命期における寓意版画を多く手がけたボワゾンについては、十九世紀の版画史家であるルヌヴィエ (RENOUVER, P.50)は、手厳しい評価を与えていて、その平凡さを指摘している。しかし、こうした比較を行って来た過程からは、論者は、決してそうした評価が全てではないことを指摘しておきたい。

同じタイトルの図10は、同じ単独像とは言え、カードの中に、奔放に描いた作例である。右上にFRATERNITEの記銘が確認される。座った女性像が胸に手を置き、振り返っている姿で描かれ、着衣は、聖母像を意識した、青、赤、黄色の三色である。やはり右上には、画面の下に書かれた記銘にもあるように「自由」を示すフリギア帽。左上には、心臓。民衆版画の世界でも、多くの作例があったと想定されるが、その一つの事例であろう<sup>36</sup>。

以上、「友愛の擬人像」について、群像と、単独像という大きな枠組を作業上の手段として考察を試みて来た。しかしながら、ことは、この程度の種類で、すべてが見渡せるほど単純ではない、というのが歴史の真実である。ここでは、再度、群像による表現を考えることで、その図像展開を別の視点から考察したいと思う。

③ 再説・群像による寓意……ブーグローの作例

図11《友愛の擬人像》は、デル<sup>37</sup>が下絵素描を行い、デュシユマン<sup>38</sup>が版刻を行った作品である。女性が中心にいて、単独像に近い印象もあるが、足下の幼児たちを考えると、やはり群像と考えるべきであろう。この作品も、現在、フランス国立図書館版画室に収蔵されている。楕円形の中に、図7と同じように、女性がペプロスを着て立っている。左肩から上衣をかけ、高い位置に紐帯をつけ右胸ははだけている。やや右下に身体をひねり、着衣の衣紋の髪が上下の線を強調している。頭部には冠を付け、左手には二つの心臓のモチーフを持っている。下に、白人と黒人の幼児が二人抱き合っていて、女性は上衣の中に二人を保護するように、包み込んでいる。足下には蛇が認められる。この作品の場合も、記銘に、Fraternitéと明記されており、その寓意内容は明らかである。二人の幼児のモチーフは、既に、図5、6で指摘しているように、奴隷解放を目指す平等を示すものである。友愛の理念が常に、このモチーフを引用する事実が興味深い。この作品の場合、女性像を中心に描くという意味からは、図7のポフゾの作例に似ていて、一方で、図6のドゥビュクルの人物構成の発想にも近いといえよう。

ところで、図13は、友愛を描いた作品ではない。《自然の寓意》と呼ばれるものである。楕円の中に、女性が正面を向き、胸を大きく開いて、一人の黒人の幼児が乳を吸っている。もう一人は、白人の幼児でやや上向き加減に母なる女性の方に顔を向けている。乳房を、「自然Nature」の擬人像のアトリビュートとして描き込むことは、豊かな自然の象徴としてしばしば行われている<sup>40</sup>。

一方で、この幼児に乳を与える女性の姿は、グラヴロが、一七八九〜九一年に著した『イコノギヤ』の中の「慈愛の寓意」(図15) (GRAVELLOT et COCHIN, *Iconologie*, 55) を連想させる。グラヴロの場合は若干身体を斜にしたポーズであるが、それを正面に据え、乳を吸う幼児を、白人と黒人の二人に変えているのである。一方で、図13には、左の足下に麦の穂、右の足下には果実が認められるが、これらは、同じ図書の中の、「豊饒の寓意」(図16) に描き込まれた、大地の恵みである収穫物が、豊饒の角の中や、左手に持った麦の穂が対応している (GRAVELLOT et COCHIN, *Iconologie*, 3)。「自然Nature」という擬人像は、既に図4で論じてあるが、ともに同じ同時代のマニュアルに従っているのである。ところで、ここで想起したい事実は、本稿のはじめに引用した、画家ダヴィッドが企画した、一七九三年の「友愛の祭典」で、バステイーユ監獄の地に作られた擬人像(図12の

左上)である。そこには、豊かな乳房から、純粋で健康によい水がほとばしる「自然」の擬人像が制作されていたからである。図13は、祭典の中で無数に使われたそうした一つの事例であろう。

何故、ここで、「友愛の寓意」の図像例から脱線し、「自然の寓意」を引用したかを少し詳しく説明しなければならぬ。それは、図14のブーグローの作品に深く関わってくるからである。この作品は、現在、ボストン美術館に収蔵されていて、制作後の一八五五年に、クールベの《画家のアトリエ》が展示拒否を受けたことで知られる、パリの万国博で展示されている。批評家T・ゴージェイが、この作品に触れ、《兄弟愛「Amour fraternel」》あるいは、《慈愛「Charité」》あるいは、A・デル・サルトを連想させる聖家族が描かれていると記述している<sup>41</sup>。実際、画面には、清楚に装ったラファエロが描いた聖母にも似た女性がいて、青緑の衣の上には深緑色の上衣を付けている。頭には灰色のスカーフを被り髪は見せない。地面から少し高い石のような上に腰をかけて、接吻し合う二人の幼児を抱擁している。一人はイエスともいえないような幼子であり、もう一人は、聖ヨハネとも解釈が可能かもしれない。その意味で、十九世紀のキリスト教絵画の一例と考えることもできる。あるいは、とりたてて、アトリビュートのような伝統的で説明的の小道具が目立つわけでもなく、単に、兄弟の愛を母親が見つめ抱擁している風俗画であるかも知れない。

しかし、幼子は、一人は白い肌に金髪であり、もう一人は、髪が黒く肌も色が暗く、はつきりと異なった色調を示している。聖母であるならば、青と赤という規定された着衣の色が使われるべきであるが、ここではその配慮はない。伝統的な約束事を踏襲した形跡もなく、キリスト教主題そのものと解釈するには、腑に落ちないところが多い。西洋美術史では、単なる「兄弟愛」を主題として風俗作品は、寡聞にしてあまり先行作例は聞いたことがない。ここで、論者は、本論文の論旨と引用したイメージの連鎖の中に、このブーグローの作例を位置づけてみたいと考えている。白人と黒人の幼児をともに描き込んだ作例は、図4、6、11、13の中に認めることが出来る。必ずしも、キリスト教的な聖母ともいえない座った姿の女性像も、図10と13にあるように、擬人像としてもしばしば見られたと思われる。彼らが親しく抱擁している図柄は、論者の判断から言えば、やはり「友愛の寓意」の含意があったのではないか、という仮説をここで提示したのである。

この画家は、図14を描く前の一八四八年に、《平等》<sup>42</sup>という寓意画を描いている。これも、必ずしも、そのまま共和主義的な思想性の明らかなものではなく、むしろ

「死」を描く宗教感覚の強い作品である。しかし、この事実は、ブーグローが寓意表現にも関心があつたことを裏付けている<sup>43</sup>。双方とも、革命時代の思想の残滓をひきずりながら、十九世紀半ばのパリで発生した《友愛の寓意》の変容例の一つであらう。

ところで、フランス革命から数十年が経過したこの時期における政治状況のなかでの、奴隷制度と「友愛」の意味をここで論じておきたい。なぜならば、この一八四八年というは、フランスにおける奴隷制度廃止が、憲法で初めて明確に規定され、また、「友愛」という言葉も初めて明記された年だからである<sup>44</sup>。ブーグローの制作環境に、こうした新しい時代の理念が色濃く存在していたことは、不自然ではない。図14の作品が、三年後の一八五一年に制作が始まり、五五年に完成したこともまた自然である。

### III 結論

フランス革命という、一つの文化革命の時代に遭遇した画家、版画家は時代の要請によって、革命の理念をイメージにすることを求められた。王立絵画彫刻アカデミーとその周辺にいた作家たちは、十七世紀半ばに仏訳版が刊行された寓意図像集『イコノギア』(C・リーバ)の影響下から生まれた、グラヴロとロシヤンが制作した、平易で簡易な『イコノギア』をアトリエに置いていた。それを念頭に、作家は、政治集会で聞こえてくる「友愛」という新しい政治理念を、伝統的なマトリビュートという、当時の人には分かりやすい記号を自在に挿入しながら、自由に創作しようとした。画家であり、政治家でもあったダヴィッドは、街路の政治劇である「友愛の祭典」を視覚的にプロデュースするために、存分にアカデミーでの教養を投入した。それが、この時期の多くの大衆版画を誕生させた。やがて数十年の後に、その時代のサロンの中核にいたブーグローにも、少なからぬ影響を与えることとなった。

☆本研究は、平成二十五年度における、科学研究費・基盤研究(C)「近代英国を中心とするエンブレムにおける宗教と科学に関する学際的研究」同基盤研究(B)「ヴァールブルク美学・文化科学の可能性——批判的継承から新たな創造へ」。並びに、芸術学部共同研究費「アート・アーカイヴ構築に向けての基礎研究」同一般研究「日欧と東洋の17世紀における、挿絵と絵画との関係についてのデジタル・アーカイブ基礎研究」にもとづく。なお、本研究は、「エンブレム研究会」そして「フ

ランス革命研究会」『百科全書・啓蒙研究会(HP)に要旨と色彩画像を掲載』」での口頭発表(平成二五―二六年)を修正加筆したものである。

☆本学部講師マートルズ Margurite DEMARNE 氏並びに、青山学院大学講師矢野陽子氏、徳島大学准教授田中佳氏にお世話になったことを記し、感謝の気持ちとした。

#### 省略記号 Abreviation

BELLIER et AUVRAY: BELLIER DE LA CHAVIGNERIE (E.) et AUVRAY (L.), *Dictionnaire général des artistes de l'école française*, 1882, Renouard, 3 vol. ; 復刻版, Garand, 1979, 5 vol.

BORDESS, Serment, 1983; BORDES (P.), *Le Serment du Jeu de Paume de Jacques-Louis David*, Paris, Musees nationaux, Coll. Notes et documents, no. 8, 1983

BnF, Est. Bibliothèque nationale de Paris, Cabinet des estampes

CHOMPRES, 1753; CHOMPRES (P.), *DICIONNAIRE ABREGE DE LA FABLE*, (1727) 1753, 3e éd., Paris, Desaint et Saillan

CYBN: Bibliothèque nationale, département des estampes, *Collection de Vinck : un siècle d'histoire de France par l'estampe, 1770-1871*, Bibliothèque Nationale, 1970-1979, 8 vol.

DCLF : REY (A.) (sous la direction de), *Dictionnaire culturel en langue Française*, 2005, Dictionnaire Le Robert, 4 vol.

DE PREZEL, 1777; DE PREZEL (L.), *Dictionnaire iconologique*, 1777, Paris, Nyon l'ainé, Barrois l'ainé; 1779, Paris, Hardouin; 復刻版 1972, Minkoff, 2 vol.

DIDEROT et DALEMBERT, *Encyclopédie*; DIDEROT (D.) et DALEMBERT



(J. Le R.), *Encyclopedie ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, Neufschastel, S. Faulsche : Amsterdam, M.M. Rey, 1751-80, 17 vol. suppl. pl. : 複製 1986, Pergamon Press

DUGUIT, 1952: DUGUIT (L.), MONNIER (H.), BONNARD (R.), *Les constitutions et les principales lois politiques de la France depuis 1789*, 1952, Librairie générale de droit et de jurisprudence, 7. éd. par G. BERLIA

EPSC:EXPLICATIONS//DES//PEINTURES, //SCULPTURES//ET GRAVURES// DE MESSIEURS// DE L'ACADEMIE ROYALE, [...] A PARIS//De l'imprimerie des Batiments du ROI//& de l'Académie Royale de Peinture

expo. David, 1989 : Expo. PARIS et VERSAILLE, Jacques-Louis David, 1748-1825, 1989, Musée du Louvre et Musée national du château, Versailles, cat. par SCHNAPPER (A.) et SERULLAZ (A.)

FURET et OZOUF, DRF, 1988 : FURET (F.) et OZOUF (M.), *Dictionnaire critique de la Révolution française*, avec la collaboration de BACZKO (B.), 1988, Flammarion

FURET et OZOUF, DRF・邦訳 一九九五: フュン(F)・オズーフ(M)【編著】『フランス革命事典』河野健一・阪上孝・富永茂樹監訳(一九八八)一九九五年、ドトモ書房

GDEL : *Grand Dictionnaire Encyclopédique Larousse*, 1982-1985, Larousse, 10 vol.

FURETIERE, FURETIERE (A.), *DICTIONNAIRE UNIVERSEL*, 1690, La Haye et Rotterdam, Arnout & R. Leers, 3 vol.; 複製版 1978, Le Robert

GONCOURT, Prudhon, 1876 : GONCOURT, (E. et J. de), *Catalogue raisonné de*

*l'oeuvre : peint, dessiné et gravé de P.P. Prudhon*, (1861 s.d.) 1876) : 複製, Slakine, 1986, Oeuvres complètes, VI-VIII

GRAVELOT et COCHIN, *Iconologie*: GRAVELOT (H.-F.) et COCHIN (C.-N.), *ICONOLOGIE par Figures*, 1789-1791, PARIS, Chez Le Pan

HAUTECOEUR, David, 1954 : HAUTECOEUR (L.), *Louis David*, 1954, La table ronde

HERLUISSON : HERLUISSON (H.), *Actes d'état-civil d'artistes français, peintres, graveurs, architectes, etc., extraits des registres de l'Hôtel-de-Ville de Paris détruits dans l'incendie du 24 mai 1871*, 1873, H. Herluison

HOEFFER:HOEFFER (J.), *Nouvelle biographie générale depuis les temps les plus reculés jusqu'à nos jours*, 1853-66, F. Didot Frère et Fils, 46 vol.

HPI, 2011 : FLECKNER (U.), WARNKE (M.), ZIEGLER (H.), (Herausgeber), *Handbuch der politischen Ikonographie*, 2011, C.H. Beck, 2 vol.

IFF : *Inventaire du fonds français*, BN

木村・群像論 一九八九: 拙論「ダヴィッド作『テニス・コート』と群像構成理論」『思想』一九八九年、七八一―九〇一、九六―一二八頁

木村・慈愛論 二〇一一: 拙論「フランス近代における『慈愛の寓意』と炎の図像」『図像』二〇一一、五四号、四五―五七頁

木村・ドゥビュケール論 二〇一三: 拙論「版画家フィリペール・ドゥビュケール制作の二七八七―九四年における主要作品……フランス革命期の寓意表現を中心た」『日本大学芸術学部紀要』二〇一三年、五八号、七五―八七頁

LACLOTTE, PLP, 1979 : LACLOTTE (M.) (sous la direction de) *Petit*

Larousse de la peinture, 1979, Larousse, assisté par CUZIN (J.-P.), 2 vol.

LAMI : LAMI (S.), *Dictionnaire des sculpteurs de l'école française*, 1898-1921, Paris, 8 vol.; 増訂版 Kraus, 1970

NAGLER : NAGLER (G.K.), *Neues allgemeines Künstler-Lexikon*, (1835-52) 1904-14, Linz, E. Mareis, 25 vol.

LAVEISSIERE, *expo. Prud'hon*, 1997 : *Expo. PARIS-NEW YORK : Pierre-Paul ou le rêve du bonheur*, 1997-98, Grand Palais ; Metropolitan Museum of Art, RMN; H.N. Abrams, cat. par LAVEISSIERE (S)

LE BLANC, *Manuel* : LE BLANC (C.), *Manuel de l'amateur d'estampes*, 1854-1889 (s.d.), E. Bouillon, 4 vol.

LEVIS-GODECHOT, 1997 : LEVIS-GODECHOT (N.), *La jeunesse de Pierre-Paul Prud'hon (1758-1796) : recherches d'iconographie et de symbolique*, 1997, L. Laget

MICHELET, *HRF* : MICHELET (J.), *Histoire de la Révolution française*, (1853-66) 1979, R. Laffont, Coll. Bouquins, I, Présentation par METTRA (C.)

*MF : Mercure de France*

PVARPS : *Procès-verbaux de l'Académie royale de peinture et de sculpture, 1648-1793*, publiés pour la Société de l'histoire de l'art français d'après les registres originaux conservés à l'École des beaux-arts, par MONTAIGLON (A.) 1976, De Nobele, 9 vol.

RENOUVIER: RENOUVIER (J.), *Histoire de l'art pendant la Révolution (1789-1804)*, considéré principalement dans les estampes [...], avec une notice biographique et une table par M. A. de MONTAIGLON, 1863, J. Renouard

*RFE 1789-1799* : PARIS, *Expo. La Révolution française et l'Europe 1789-1799*, 1989, Grand Palais, RMN, 3 vol. GABORIT (J.-R.) (commissaire général)

ROSENBERG et PRAT, *David*, 2002 ; ROSENBERG (P.) et PRAT (L.-A.), *Jacques-Louis David, 1748-1825 : catalogue raisonné des dessins*, 2002, Leonardo Arte

ROUX, *IFF* : ROUX (M.); *IFF, graveurs du XVIIIe siècle*, II, 1934 ; III, 1940 (AUBERT, M.) ; VI, 1949 ; VIII, 1955

SCHNAPPER, *David*, 1980 : SCHNAPPER (A.), *David, témoin de son temps*, 1980, Fribourg

THIEME und BECKER: THIEME (U.) und BECKER (F.), *Allgemeines Lexikon der bildenden Künstler*, 1907-50, Seemann, 30 vol.

VOVELLE, *RFIR*, 1986 : VOVELLE (M.), *La Révolution française, images et récit, 1789-1799*, 1986, Livre Club Diderot, 5 vol.

WILDENSTEIN, *David* : WILDENSTEIN (D.) et WILDENSTEIN (G.), *Documents complémentaires au catalogue de l'oeuvre de Louis David*, 1973, Fondation Wildenstein

## 註

1. 革命期の美術史研究についての「ダヴィッド」を中心とした「解題のついた和文文献案内」としては、

一九八七 木村三郎・竹下陽子「主要文献目録」『ダヴィッド』美術出版社 一七二〜一七四頁

同題旨の欧文文献では、

1987 DAVID (M.), 《L'estampe comme source historique》, *Fraternité et la*

*Révolution française, 1789-1799*, Aubier, Coll. historique fondée par LEMERLE(P.), et dirigé par AGULHON(M.) et GUENEE (B.), p.295-304  
2003 COUSIN(B.) 《La Révolution donnée à voir》 *La Révolution Française, Au carrefour des recherches*, Université de Provence, sous la direction de LAPIED(M.) et PEYRARD(C.), p.325-338

一九八九年における「国際的なフランス革命二〇〇年記念行事以降」における「自由」論を中心とした論考には多くのものがある。「友愛」の図像学を考察する本論は、それらを網羅的に論じるだけの見識は論考にはなからず、また趣向が異なるので、むしろ美術史的関心から書かれ、重要性の高い先行研究を記録しつづけた。

1977 PARIS:Expo. *L'art de l'estampe et la Révolution Française*, Musée Carnavalet par REZNAUD (F.), HUREL (R.)

1981 HARRIS (J.), 《The Red Cap of Liberty: A Study of Dress Worn by French Revolutionary Partisans, 1789-94》, *American Studies for Eighteenth-Century Studies*, Vol. 14, No. 3, p. 283-312  
1989 GOMBRICH (E.), 《Le fantôme de la Liberté》, *FMR*, 21, p.1-24

一九八九 拙論「キロンに送られた猫…自由の寓像」『レポートへまがさ』一四八号『地中海文化の旅』九九（『地中海文化の旅』(3)）河出文庫 一九九三年 四五—五〇頁（再録）

一九九〇 拙論「自由・平等・友愛のイメージ…革命理念を伝える」『週刊朝日百科・世界の歴史』(18世紀の世界の革命と反乱) のちのちのちのち

1990 LIRIS (E.) 《Autour de l'image de la liberté dans la symbolique révolutionnaire》, *Iconographie et image de la Révolution Française*, ACFAS, Actes du colloque tenu en 1989 à Montréal

1990 SCHMIDT-LINSENHOF (V.), 《Herkules und Madame Sansculotte》, *Journal Geschichte*, 1, p.32-41

1991 WARNEKE (M.), 《La démocratie entre images idéales et caricatures》, BERNE: *Expo. Emblème de la liberté, l'image de la république dans l'art du XVIIIe au XXe siècle*, Berne, 21e expo. du Conseil de l'Europe, p.73-95

(11000) 11011 若菜あさひ『イメージの歴史』ちくま学芸文庫、筑摩書房  
110011 平正人『フランス革命における新聞記者のイメージ…記者の頭部を飾る』《炎》

の意味』『田島美術学全集』111号 三九—五四頁  
2010 TAWS

2011 WOLDT (L.), 《Freiheit》, *HP1*, 1, p.372-380  
2011 BORDES (P.), 《Gleichheit》, *HP1*, 11, p.426-433

2 語源やフランス語の *Fraternitas* 由来の *fraternité* の *frat* の中の *fr* は *frater* の意味である (GAPFIOT, 1934, p.685)

3 DIDEROT et D'ALLEMBERT, *Encyclopédie*, VII, 1757, p.290 (D.J.) 一たび「関連項目として」カトリックにおける「兄弟会」信心をこのように詳説されている。深沢克己・桜井真里子（編）『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史』東京大学出版会、二〇一〇年 参照

4 英語訳 *Fédération générale de la France* MICHELET, *HR*, ch. XII, p.339. フランスのフランス革命の主要な原理として友愛を挙げた。OZOUF, in FURET et OZOUF, *DRF*, 1988, p.737; 邦訳, 1995, p.1180

ジャン・ユ・ピラスは *fraternité* のフランス語の源を「友愛」としての言葉や研究者ダヴィッドが指摘している (DAVID M., *Fraternité et Révolution française*, Coll. Historique, 1987, Aubier, p.57-58)。差別的撤廃とこの理念を演劇的に表現したとした連盟祭の様式のなかでふたんに用いられた。福音書そのものが、普遍的な兄弟愛の聖火を地上にまわすことを欲した。キリスト教とフランス革命とが近い関係にあり、自由・平等と並入る「友愛」が三位一体「Trinité」と感じられたのである (OZOUF, 1988, p.732-733)。

中世「オックスフォード」の *fratres* の問題については CURTI (M.) 《Philanthropy》, *Dictionary of History of Ideas*, III, 1979, p.486-493; 邦訳「博愛 Philanthropy」『国語学大事典』平凡社、一九九〇年、三巻、五二—五二九頁

5 フの版画家は、一七六六年に生れ、一八三三年以降没。しかし、ロマンティック、並ぶ、ロマンティック、ロマンティックを制作。フランス国立図書館には、二四点の作品が、戦前の確認されている (ROUX, *IFP*, II, 1934, p.31)。なか、この作品は白黒の版画のみ知られている (Hennin, 11598)。

9. AUBERT (M) et ROUX (M), *CVBN,III,1970, no.4911, p.190*. *ゾレ* 作品誌  
 邦文訳本に於ける「友愛」の象徴的意味。SCHNAPPER, *David*, p.136,140に論及がある。
10. DISCOURS//DE J.L.DAVID, [J]  
 CHERS CONCITOYENS, BRAVES CANONNIERS, //FIERS APPUIS DE LA  
 PATRIE !  
 La Convention Nationale nous a députés vers vous:c'est en présenece de l'Éternel,  
 c'est à la face de toutes les Nation qu'elle nous a envoyés pour resserrer ensemble  
 les doux liens de la *fraternité*; nos coeurs ont besoin de se presser, nos âmes  
 brûlent de se confondre: unissons-nous, chers Concitoyens [...]. (ヤコフ・ダビッドの  
 離れ字) (9)

80. DAVID (J.-L.) et PTHOU DE LOINVILLE (J.-J.), *DESCRIPTION GENERALE//DE  
 LA//PREMIERE FETE REPUBLICAINE//DE LA RÉUNION*. [J]

出版の背景を参照(ゾレ 展覧会要録の邦訳を 展覧会レポートの図表を参照)  
 WILDENSTEIN (D. et G.), *Documents complémentaires au catalogue de l'oeuvre  
 de Louis David* 1973, Fondation Wildenstein, p.53, no.459, Année 1793に開催された  
 ズレの展覧会 資料として複製されたものを 図表を参照。

TORNE (P.-A.), *RAPPORT//SUR LA FÊTE //DE LA RÉUNION  
 RÉPUBLICAINE// Du 10 Août 1793/lan 2e de la République PRÉSENTÉ AU  
 COSEIL DU DÉPARTEMENT* (BnF, Gallica) 複製。

この展覧会に於ける「友愛」 MICHELET, *HRF,II, p.548-552*; HAUTECOEUR,  
*David*, 1954, p.123-124; OZOUF (M) «Le cortège et la ville. Les itinéraires  
 parisiennes des fêtes révolutionnaires», *Annales, Economies, Sociétés*,  
*Civilisations*, 1971, no.5, p.889-916; 邦訳: ホバーン (訳) 「革命の象徴」『革命の象徴』  
 邦訳書局 中川幸一編「一七九〇〜一七九五年」一七九二年八月一〇日 ルーヴル  
 美術館の展覧会「革命の象徴と象徴」東信堂 二〇一三年 一四六〜一四七頁。

9. ハントンの展覧会をめぐり「友愛」の象徴的意味を論じた展覧会図録を参照( Monnet 邦文  
 訳著「 Helman 展覧会 ハントンの展覧会 展覧会図録」 De Vinc 1720 (Gallica);  
 SCHNAPPER, *David*, p.139, reprod

10. フランス革命期以前に於ける「友愛」の象徴的意味を参照( Monnet 邦文訳著「  
 展覧会図録」 Helman 展覧会 ハントンの展覧会 展覧会図録」 De Hagedorn (C.  
 L.) *REFLEXION SUR LA PEINTURE*, 1775, LEIPZIG, CHEZ G.F.RITCH. TRADUITTE  
 DE L'ALLEMAND PAR M.HUBERT, 徳文訳 Minkoff, I-III, Chapitre XXXII-XXXIII
11. p.10: 「友愛」の「友」の象徴的意味を参照( Monnet 邦文訳著「  
 DE  
 PREZEL 展覧会 展覧会図録」を参照)。ゾレ RENOUVIER (p.399-400) に  
 ズレ ハントンの展覧会をめぐり「友愛」の象徴的意味を論じた展覧会図録  
 を参照する。ヤコフ マーロンの展覧会を「邦文訳」邦文訳「邦文訳」の  
 展覧会図録に於ける「友愛」の象徴的意味を参照( Monnet 邦文訳著「  
 GOMBRICH, 1989, p.14-16

81. DAVID, in WILDENSTEIN, *David*, p.54

82. 1948 DOWD (D. L), *Pagant-Master of the Republic. J.-L.David and the French  
 Revolution*, Nebraska, Coll. University of Nebraska Studies, New Series, no.3, p.110-  
 115, reprod, XV

一九八九 木村・平塚編  
 ハントンの展覧会図録を参照

1989 expo. *David*, p.242-275

1993 DE BAECQUE (A), «Le Serment du Jeu de Paume: le corps du politique  
 idéal», *David contre David* actes du colloque organisé au Musée du Louvre  
 (1989) , Il, p.759-781

1993 JOHNSON (D.), *Jacques-Louis David : Art in Metamorphosis*, Coll. The  
 Princeton Series in Nineteenth-Century Art, Culture, and Society, Princeton  
 UP, p.77-81

1993 KEMP (W), «The Theater of Revolution: A New Interpretation of Jacques-  
 Louis David's *Tennis Court Oath*», in *Visual Culture : Images and  
 Interpretations*, ed. by BRYSON (N.), etc, Wesleyan UP, etc, p.202-227

1995 CROW (T.), *Emulation, Making Artists for Revolutionary France*, Yale  
 UP, p.189-220

2000 ROBERTS (W.), *Jacques-Louis David and Jean-Louis Prieur : Revolutionary  
 artists : the Public, the Populace, and Images of the French Revolution*, Albany

State University of New York Press

2001 ROSENBERG et PRAT, David, II, p. 919-952, no. 1368- 1435

41 BORDES, Serment, 1983,no.84b; expo. David, 1989,p.263,no.107

15 井行海峯

1876 GONCOURT, Prudhon,p.155

1913 BAYLE (P.), 《Les Salons sous le Directoire》*L'art et les artistes*, juillet,p.173-178, reprod.

1924 GUIFFREY (J.), *L'oeuvre de P.-P. Prudhon*, Coll.de la Société de l'Histoire de l'art français, A. Collin, p.142- 143,no. 388-390

1997 LEVIS-GODECHOT,p.246-248

1997 LAVEISSIERE, expo. Prudhon, no.111, p.161-163

2011 BORDES (P.), 《Gleichheit》, HPLI, p.426-433;reprod.6

91 GONCOURT, Prud'hon,1876,p.153-154 et 334 ;GUIFFREY (J.), *L'oeuvre de P.-P. Prudhon*, Coll.de la Société de l'Histoire de l'art français,1924,A. Collin, p.142- 144,no.388-390 ;LEVIS-GODECHOT,1997,p.246

17 DE PREZEL,1777,p.245-246; LEVIS-GODECHOT,1997,p.246

81 CHOMPRES,1753,p.255-256;「虫田」のマトリコトである「猫」については、拙論「ギロチンに送られた猫…自由の寓意像」『レポーターマガジン』一九八九年、第一四八号、『地中海文化の旅』九九号（なお、これは、『地中海文化の旅（3）』河出文庫、一九八三年、四五～五〇頁に再録）

61 Nature de l'homme DE PREZEL,1777,p.192-193参照。古代のメダيونの作例を引きながら、子供に乳を与える女性の姿が、Natureの1つの条件であることが書かれている。

82 CHOMPRES,1753,p.102-102;DE PREZEL, 1777, p.52-53;LEVIS-GODECHOT, 1997,p.246

21 LAVEISSIERE,expo Prudhon, 1997, p.161, 以下のコメントにおける奴隷制については、一七八五年三月の「黒人法典」Le Code Noirが、ルイ十四世の公布されたもの。REUEIL//D'EDITS//DECLARATIONS ET ARRESTS//DE SA MAJESTE...JA PARIS//Chez les LIBRAIRES ASSOCIEZ//1744-45 (GALLICA), 中の p.81参照。十八世紀における議論については JAUCCOURT(D), 《Traité des Nègres》, DIDEROT et D'ALEMBERT, Encyclopédie, XVII,1765,p.532-533;市川慎一『百科全書派の奴隷制批判』『百科全書派の世界』一九九五年、世界書院、九九～一二四頁。奴隷解放の歴史には、以下のような経緯がある。一七八九年当時は、フランスは、奴隷解放には無関心であった。

一七九一年以降、フランス領西インド諸島のサン・ドマングでは、黒人奴隷が暴動を起した。

奴隷主間抗争の終結と黒人反乱の鎮圧のために、フランスから、六〇〇〇人の兵が送られた。全権統治委員の一人は、シャヨパン派右派でブリーヌー BRISSOTの友人のソントナクス(ソントナ) SONTONAXであった。

一七九二年八月一〇日、チェイリリー官殿襲撃、王家を監禁。これ以降、民衆は、奴隷制を含んだ、あらゆる種類の王制や圧政、抑圧を攻撃し、皮膚の色による貴族制である奴隷制を憎むようになった(JAMES,C. L. R, *The Black Jacobins*,J. (1938) 1980,Alison & Busboy,p.118-121;邦訳 シェームス『ブラック・ジャコブス』トマサン・ルヴェルチュールとハイチ革命』一九九一年、大村書店、青木芳夫監訳、ペリフェリ選書、二二二～二二四頁)。

一七九三年八月二九日、ソントナクスが、イギリス、スペインとの戦闘に黒人奴隷を動員するために、彼らの即時全面解放を宣言した。

一七九四年一月四日、国民公会で、ルヴスール議員の提案によって、フランスの全領土での奴隷制廃止が決議された(『資料フランス革命』一九八九年、岩波書店、河野健二編、四九六頁、邦訳・服部春彦)。より詳しくは、服部春彦『十九世紀フランス領砂糖植民地の発展と奴隷制の廃止』ヨーロッパ：国家・中間権力・民衆』一九八五年、名古屋大学出版局、二八三～三一九頁。浜忠雄『ハイチ革命とフランス革命』一九九八年、北海道大学図書刊行会、一〇三～一三九頁。平野千果子『文明化』とフランス植民地主義…奴隷制廃止をめぐる議論から』『思想』二〇〇〇年、九一五、六五～八七頁

22 以下の中の相当数の画像は、現在、フランス国立図書館が公開しているGALLICAによって、関連データとともに閲覧ができる。この作品の記述とデータは、CYBN

に対応している。「一七九三年」という年は、版画家の学芸員による分類上の数字であり、必ずしも、制作年に一致するものではないと思われる。

23. DUGUIT, 1952, p.65; 辻村みち子『フランス革命の憲法原理…近代憲法とジャコバン主義』日本評論社、一九八九年、四〇九頁

24. フトー(《人生の魅惑》、ウウオーレス・コレクション蔵、一七七八年頃)、ランケル(《黒人と料理人》素描、一七二〇年頃)、ブーシエ(《イタリアの村の情景》タピスリー、メトロポリタン美術館蔵)等の作品の中に確認できる。文学では、イギリス作家ベーンが一六八八年に初版を刊行した、黒人の王子を扱っている小説『オロノコ』が、フランス語に訳され(ORONOKO/TRADUIT//DE LANGLOIS//DE/MADAME BEHN [JA AMSTERDAM, 1745])、一七四九年には、挿絵入りで改訂されている。フランス革命期における、黒人図像のひとつは、VOVELLE, RFR, 1986, II, p.232-247; RFE, 1789-1799, III, p.671-675

25. 鶏の象徴的な意味は、一般的には、用心深さと活発さを表している。しかし、政治的な意味では、ガリア人が、自分たちの軍団の指揮官が掲げた旗に使っていた。DE PREZEL, 1777では、フランス人が、スペインと戦い勝利した際に、スペイン人をライオンで示し、鶏の前から逃げる場面を描いた作例が指摘されている。

26. ナラ、カシワ、クスギなどの種類があり、ほとんわり状の葉をつける (GDEL, 1982, III, p.2109-2110)。

27. DE PREZEL, 1777, p.76, フランス革命期の寓意のひとつ、詳細な分析を行っているルヌヴァリエによれば、この枝に赤い帽子を掛ける図像が生まれ、フランス全土における「自由の木」を広めることとなった (RENOUVIER, 1963, p.398)。

28. 以下のサイトからの引用。http://www.cosmovisions.com/monuParis Place Carrousel.htm (この木が、chêneとよまれたことと諸説がある。RENOUVIER, 1963, p.398)。

29. 先行研究は、註16・21の内容と重複する。GONCOURT, 1876, p.153-154, no. 67:

GUIFFREY, 1924, p. 142-143, no. 388-390; LAVEISSIERE, 1987, no. 112, p. 161-164; LEVIS-GODECHOT, 1997, p. 246-250; GALLICA

30. Copia, Jacques-Louis (1764-1799)

31. 関連版画五点が知られている。その中には、ナポレオンの時代に記録の内容が差し替えられたものがある (DE GONCOURT)。版画家 COPIA については、LE BLANC, Manuel, II, 1856, p.4

32. 従来からの見解では、この版画家は、BOIZOT一族の中で、王立絵画彫刻アカデミーにおける彫刻家として知られた存在である。現在でもルーヴル美術館の《ラシーヌの彫像》等の代表作が多く展示されている。Louis-Simon (一七四三生-一八〇六年没、一七七八年、アカデミー会員)と同一であると思われる (RFE, III, 989, p.669-670, no. 883)。しかし、版画の中の記録に書かれているのは姓だけであり、多くの美術史系参考図書を参照した上でも、版画作品についての先行研究はほとんど無いらに等しい。しかし、本稿にとっては、重要な位置を占める作家であり、「同時代文獻」には、サロン評と、官報 (MF, 『メルキュール・ド・フランス』)等に記された一七七一年以降、一七九三年までの主要な文献を、以下に列記しておきたい。彫刻には、寓意作品も若干あり、それらはタイトルを記録した。

#### ☆同時代文獻

1771-11-9 PVARPS, VIII, p.87

1777-10 MF, p.267

1778-11-28 PVARPS, VIII, p.352

1785-10-1 MF, p.40 (no.232-234)

1787 EPSG, p.49, no.249

1787-9-22 MF, p.185-18 (no.249-251)

1789 EPSG, p.49, no.238-239 (L'Amitié, La Tendresse)

1789-10-24 MF, p.9 (no.236-239)

1791, [IV], GES//DE [..] SCULPTURE//ET ARCHITECTURE //GRAVURES, DESSINS, //MODELES, //EXPOSES AU LOUVRE//PAR ORDRE//DE L'ASSEMBLEE NATIONALE, //Au mois de 1791//L'AN III DE LA LIBERTE, p.35,

no.448

1793 DESCRIPTION// [..]des/[...]DE PEINTURE, //SCULPTURE// ARCHITECTURE ET GRAVURE// EXPOSES//AU SALON DU LOUVRE // [...] A PARIS/[...]de la Veuve Herzl...p. no.51 (Un Republicain maintenant L'Union & l'Egalité, Modèle en platre de 3 pieds de proportion, Par Boizot)

☆十七世紀の版木鑑

1863 RENOUVIER, p.48-51

1873 HERLITSON, p.42

1910 LAMILL, p.85-92 作中トランプ・参事文鑑

1977 REYNAUD (F.) , in cat.PARIS:ExpoL'art de l'estampe et la Révolution Française, no.52, p.12,14

1989 BENOIT (J) , etc.in RFE 1789-1799 , II, p.487-488, reprodn. 635, II, p.669-670, no.883

2001 PARIS:expoLouis-Simon Boizot (1743-1809) , Sculpteur du roi et directeur de l'atelier de sculpture à la manufacture de Sévres, Musée Lambert, Versailles, Somogy  
1100年 田中健 『アンシャン・レジームにおける美術政策と鑑賞者...王宮建造物局総監タンタン・マンローウの美術鑑識』(1747-1793)』(「橋」大社・博士論文) 1111頁  
online

33 木村・藤論『11011

34 今の作品には、サミュエル市のフランス革命博物館所蔵の作品が知られていて (VOVELLE, 1886, p.306)。

35 DARCIS (Louis) (1782-1806) の版木鑑。LE BLANC, Manuel, II, p.93  
ROUX, JFF, 1949, VI, p.22, no.14 に対しての版木鑑。今の版画家が誕生した年  
はわからなく。一七八七年に最初の版画作品が現れる。一八〇一年死亡。革命期には、  
時代の趣味を取り込み、ポポンの作品の大衆化に貢献した。

36 DUGOURC (Jean-Démsthène) (一七四九年、ヴェルサイユで誕生) 一八二五  
年死亡) 建築家サントンを喜び、知られた存在であったが、革命期には、トランプや

小なる装飾模様 vignette など知られる。LE BLANC, Manuel, II, 1856, p.154 ;  
ROUX, JFF, 1955, VIII, p. 141-144 ;FORRAY-CARLIER (A.), 《Dessins de Jean-  
Démsthène Dugourc pour la Garde-Meuble de la couronne》BSAHF, 1991, p.133-144,  
巻2 p.131 ;DA, IX, p.378

37 DERAIS (C.-L.) (1746-1816) のトランプ。版木の装飾的なデザインを知るべき  
な。ADHEMAR (J) et LETHEVE (J) JFF, après 1800, 1953, VI, p. 432

38 DUCHEMIN (R.)

39 トランプの作品の題名だが、彼が関わった多くの真意作品 (L'Eglité La Raison, La  
Loi La Liberté, La Force, L'Histoire 等) が存在する。論者がフランスの版画館設  
画制作、トランプの中で探されたデザインやその作例を確認しているが、本作品だけが  
革命期に制作された版画と見なされ、単に政治的なプロパガンダとしての機能を果た  
して、美的に優れたものが多い。

40 母親が「幼児たち」を育て、兄弟の面倒を見る。トランプの『母  
性全集』の中で、トランプが書いた「政治経済論」(一七五五年)に登場している。\* Si  
les enfants sont élevés en commun dans le sein de l'égalité...une douzaine pas qu'ils  
n'apprennent ainsi à se chérir mutuellement comme des frères. \* DIDEROT et  
D'ALEMBERT, Encyclopédie, V, p.343 (Economie ou oeconomie); ROUSSEAU (J-  
J) Discours sur l'économie politique, Oeuvres complètes, III (Du contrat social,  
écrits politiques), 1964, sous la direction de GAGNEBIN (B.) et RAYMOND (M.),  
Coll. Bibliothèque de la Pléiade, p.261, 147 DE PREZEL, 1777, p.193

41 今の作品についての先述研究

1855 GAUTIER (T) Les Beaux-Arts en Europe, M. Lévy Frères, I, p.305

1965 TRAPP (F.A.), 《The Universal Exposition of 1855》BM, 747, p.300-305

1984 ISAACSON (R.) 《Les collectionneurs de Bouguereau en Angleterre et en  
Amérique》in cat. expo, William Bouguereau, Paris, Musée du Petit Palais,  
p.104-113, note 11

1989 MACCLINTOK (L.) 《William Bouguereau》. 展覧会図録 《サントン美術館展...

42. *Egalité* (1849, Salon no. 201)。

43. 後には、以下のように《慈悲》を描いた真意画も知られている。一八六五年のサロン出品作 *Salon* (Expo. London, Art Treasures of England, 1998, p. 232)；一八七四年のサロン出品作 *New Acquisitions: Gérôme and Another Bouguereau*, *Museum Bulletin*, 1996

44. このころフランスにおける革命以降の奴隷制の変遷を辿る。

一八〇二年、ナポレオンが奴隷制の復活を決定。

一八一四〜一五年、ウィーン会議で、奴隷貿易の廃止の決定。

一八三三年、フランス奴隷制廃止委員会が設置される。

一八四八年四月二十七日、シユルシユール V. SCHELECHER の指導下で、奴隷制廃止委員会が報告書を作成し、政令 *Décret* が公布された。二月革命後に成立した第二共和制下で、奴隷の「即時令置」開放を宣言（既出論文「平野千景十一年（二〇〇〇年）」）。

なお *MONITEUR UNIVERSEL* No. 1252, MAI 1848, の中で *Assemblée nationale* が、政令 *Décret* の形での *Constitution provisoire* を掲載している。全九条からなる。その第六条 Art. 6. では、*Les colonies, purifiées de la servitude et les possessions de l'Inde seront représentées à l'Assemblée nationale*（隷従から解放された植民地およびインドの所領は、国民議会に代表を送る権利を有する）とされている。

また、同年十一月四日施行のフランス憲法序文では、「友愛」の文字が明確に書かれる。*Il la République française. IV Elle a pour principe la Liberté, l'Egalité, et la Fraternité. CONSTITUTION FRANÇAISE, DU 4 novembre 1848. PREAMBULE, chapitre II 友愛* フランス国民は、奴隷制を禁止する（*DUGUIT, 1952, p. 212-214*）；*GASTON-MARTIN, 1948*（註）, p. 61-62



## 図 版

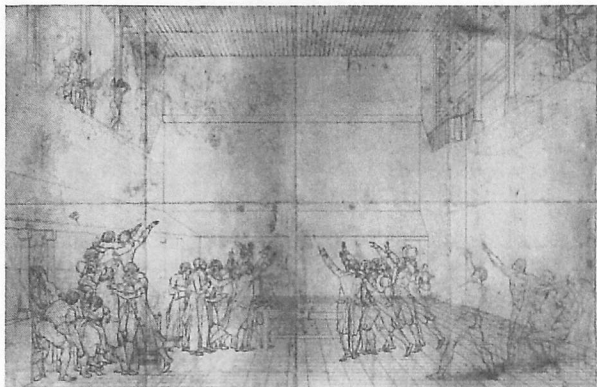


図2 J-L・ダヴィッド《テニス・コートの誓いb》

素描、紙、茶、黒のインク、灰色の淡彩、黒チョークとペン

1790年頃

66.2 × 99.0 cm

ケンブリッジ、フォッグ美術館蔵 (inv.1943-799)

文献：註13参照

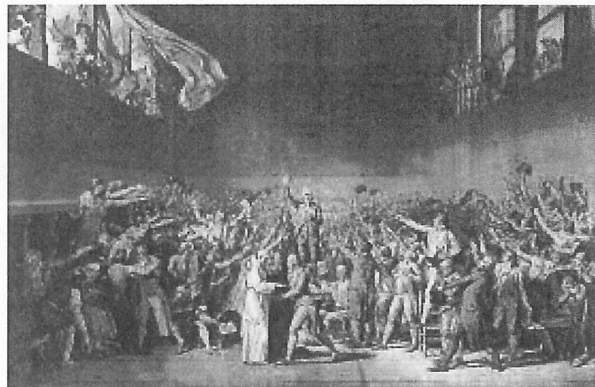


図1 J-L・ダヴィッド《テニス・コートの誓いa》

素描、褐色のインク、他

1791年

66 × 101.2 cm

記銘と年記 J. L. DAVID, feciebat anno 1791

ヴェルサイユ宮国立美術館 (ルーヴル美術館からの寄託、RF1914, MV8409)

文献：註13参照



図4 P-P・プリュードン《フランス憲法の寓意・・・平等と法》

素描

29.6 × 46.8 cm

個人コレクション

文献：註15参照

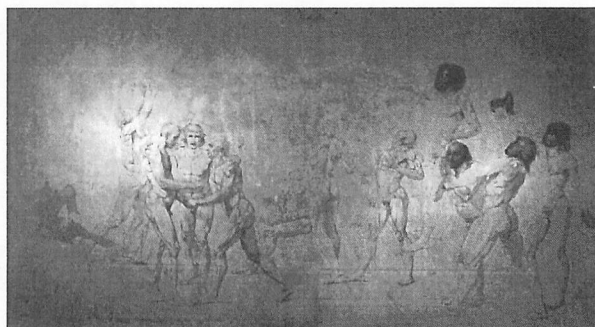


図3 J-L・ダヴィッド《テニス・コートの誓いc》

画布

約 3.58 × 6.48 m

ヴェルサイユ宮国立美術館 MV5841

文献：註13参照



図6 P.-L.ドゥビュクール《友愛の寓意》  
版画  
BnF,Est 蔵  
文献：木村、ドゥビュクール論、2013, 図9 参照



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

図5 P・プリュードン素描、J-L・コピア, ディアン  
版刻《フランス憲法の寓意・・・平等と法》

版画  
1798年  
40.6×50.3cm  
記銘：Constitution française fondée par la sagesse sur les bases immuables des droits de l'homme et des devoirs du citoyen : Ce qui convient à la société : Ce qui convient aux hommes : P.P. Prudhon invenit ; Copia sculpsit ; Dien scripsit  
BnF,Est 蔵,Hennin, 12164  
文献：註7 参照



図8 作者不詳《友愛の擬人像》  
エッチング  
記銘  
楕円形の下：La Fraternité  
下部：A Paris chez J.Chereau rue Jacques aux 2.Colonne No.257  
BnF,Est 蔵 M 102.45  
文献：1987 DAVID,fig.no.15

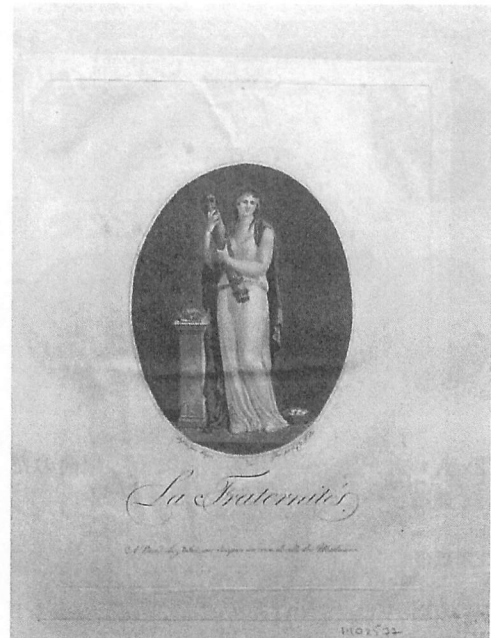


図7 ボワゾ下絵素描、ロレ版刻《友愛の擬人像》  
点刻版画  
記銘  
楕円形の下：Dessiné par Boizot ;Gravé par Cne Rollet  
中段：La Fraternité  
下：A Paris chez Baffet, rue jacques au coin de celle des Mathurins  
BnF,Est 蔵  
文献：1921 AUBERT et ROUX,Coll.de Vinck,III, no,6060, p.610, Fol.6 ; 1987 DAVID, fig.no.16



G163269

Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

図10 J-D・デュグルク《友愛の擬人像》

版画  
記銘

右上 FRATERNITE

左下：THALAMUD//CORAN//

下：LIBERTE, [...]

BnF,Est 蔵,G163269,GALLICA



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

図9 ボワゾ下絵素描、L・ダルシ版刻《友愛の擬人像》

版画

BnF,Est 蔵, Hennin,12009

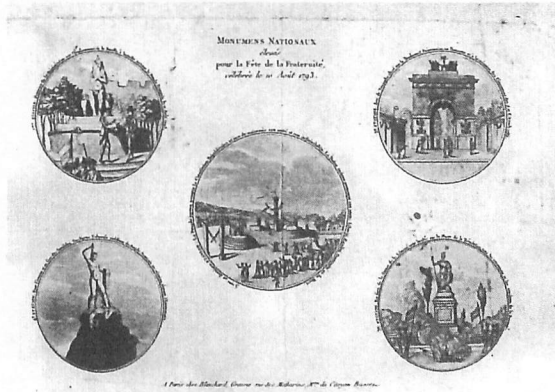


図12 A・ブランシャール版刻《友愛の祭典のための建造物》

版画

1793 年以後

記銘

上部：MONUMENTS NATIONAUX//élevés//pour la Fête de la Fraternité, //célébrée le 10 Août 1793

下部：A Paris chey Blanchrad. graveur rue des Mathurins, Mon du Citozen Basset

BnF,Est 蔵,HENNIN,11598

文献：ROUX,IFF,III,no.4911,p.190 (colorié);1980 SCHNAPPER, p.158,fig.77



図11 C-L・デレ下絵素描、R・デュシュマン版刻、《友愛の擬人像》

エッチング 点刻  
17×13 cm (楕円部分)

記銘

楕円形の下：La Fraternité

最下段：A Paris chez Basset,rue Jacques au coin de celle des Mathurins

BnF,Est 蔵,Hennin, 12172

文献：1987 DAVID,fig.no.18



図14 A・B・ブーグロー 《友愛の寓意》  
画布・油彩  
1851-55年  
147×113.8 cm  
ボストン美術館蔵  
文献：註41参照



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

図13 作者不詳 《自然の寓意》  
版画  
BnF,Est蔵, HENNIN,12171  
GALLICA,



図16 H-F・グラヴロ、《豊饒の寓意》  
エッチング  
『イコノロギア』 GRAVELOT et COCHIN,  
ICONOLOGIE par Figures,1789-91 挿絵  
記銘 ABONDANCE



図15 H-F・グラヴロ、《慈愛の寓意》  
エッチング  
『イコノロギア』 GRAVELOT et COCHIN,  
ICONOLOGIE par Figures,1789-91 挿絵  
記銘 CHARITE  
文献：BOIME,AB,1971,p.70,fig.4

**DESCRIPTION GENERALE**  
**DE LA**  
**PREMIERE FETE REPUBLICAINE**  
**DES FRANÇAIS**  
**SURVEILLÉE PAR LE COMITÉ DE LA FÊTE**  
**ET DE LA MANÈGE A LAIR.**

Cette fête a été célébrée le 20 août 1793, à la  
famuse journée qui s'est passée aux  
Tuileries, le 10 août 1793, et à l'accepta-  
tion de l'acceptation de la Constitution  
par le Souverain.

**FAITS PRÉLIMINAIRES**  
Ces hommes sont tous réunis par  
l'amour de la liberté et de la patrie. On ne  
trouve que des Français qui sont  
admirables lorsque la justice ex-  
ploite les âmes.

Qu'ils sont admirables lorsqu'ils se réunissent  
pour défendre les droits de l'homme et  
de la patrie. C'est dans ces moments  
de la fête que les Français ont  
trouvé le moyen de se réunir et  
de se défendre. C'est dans ces  
moments que les Français ont  
trouvé le moyen de se réunir et  
de se défendre.

Lb 41 3238

資料2 J-L・ダヴィッド、J-J・ピトウ＝ド＝ロアンヴィ  
ル『友愛の祭典のための企画書』

1793年  
BnF, Est 蔵, Lb41-3238  
Collection Les archives de la Révolution française  
105×148 mm  
GALLICA  
文献：註8参照

**DISCOURS**

DE J.-L. DAVID

Député du Département de Paris, adressé à nos braves Canon-  
niers, lorsqu'il fut nommé par la convention nationale au  
des comités, pour fraterniser avec eux dans une fête cé-  
lèbre aux Champs-Élysées, le 23 Juin 1793, l'an deuxième  
de la République Française.

CHERS CONCITOYENS, BRAVES CANONNIERS,  
FRANÇAIS, FIERS APRES LA PÂTTE!

LA Convention Nationale nous a députés vers vous ;  
c'est en présence de l'Eternel, c'est à la face de toutes  
les Nations qu'elle nous a envoyés pour resserrer ensemble  
les deux liens de la fraternité; nos coeurs ont besoin  
de se presser, nos âmes brûlent de se confondre : uni-  
sons-nous, chers Concitoyens; que les traitres qui s'informent  
de nos moindres mouvements puissent en apprenant notre  
union, présage certain de la victoire.

Lb 41 3107

Fille du Ciel, idole des grandes âmes, Liberté; jette  
un regard favorable sur ces jeunes Enfants, protège notre  
chère Patrie; défends les atteintes cruelles que tu

資料1 J-L・ダヴィッド『友愛の祭典に向けて』  
1793年6月23日  
BnF, FRBNF30304752  
Collection Les archives de la Révolution française  
GALLICA  
文献：註7参照